



新年のごあいさつ

謹んで新年のご祝辞を申し上げます。
町民の皆さまには、清々しく新年をお迎えのこと
と、心からお喜びを申し上げます。
今年の干支は「寅」となっております。寅は「動く」という意味があり、植物の例えとして草木が初めて地上に生ずる状態を表していると言われてます。そのため、芽が出たものが成長していく年であり、これから物事の象徴が生まれ始める年とも言われています。
昨年のご挨拶でも申し上げましたが、昨年の「丑年」は、発芽直前の曲がった芽が種子の硬い殻を破ろうとしている状態で、命の息吹を表していると言われ、今にもはち切れそうなくらいの生命エネルギーが充滿している状態であると申し上げました。
改めて植物に例えると、「昨年」の「子年」は種子が膨らみ始める年であり、昨年の「丑年」はその種子がいよいよに膨らみ、今年「寅年」は芽を吹き成長していく年であると思います。
約二年間、コロナ渦の中で、生活に、事業活動に、自粛を余儀なくされましたが、今年は寅年にあやかり、あちこちに息吹いている好循環なまちづくりの流れを拡大させ、活力あふれるまちづくりを力強く推進してまいりますので、町民の皆さまの「一層のご支援・ご協力」をお願い申し上げます。
改めて、本年も皆さまにとりまして、幸多き年となりますよう心よりご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

四万十町長 中尾 博憲



▼受賞された皆さん



第58回 高南台地総合美術展覧会

受賞おめでとうございます

11月12日から18日まで、第58回高南台地総合美術展覧会が開催されました。開催期間中は、650名を超える来場者にご覧いただき、また、出展者数99名、作品数139点と盛大な展覧会となりました。受賞者は右のとおりです。(敬称略)

絵画の部

特選 青木 健真
特選 山川 陽子
褒状 門谷 京子
褒状 竹村 君子
奨励賞 西村 洋一
奨励賞 杉本 小恵
新人賞 竹村 百合子
新人賞 大串 妙子

写真の部

特選 吉田 道夫
特選 武田 悦子
褒状 鬼頭 俊英
褒状 新谷 宗義
褒状 武市 美和
奨励賞 沖 英輔
奨励賞 南部 多鶴子
奨励賞 吉村 純三
新人賞 中平 文江
新人賞 佐竹 強

書道の部

特選 堀内 仁峰
特選 中城 康華
褒状 今井 真理
褒状 中屋 松雲
褒状 廣田 紅雲
奨励賞 笠原 多嘉
奨励賞 荒木 翠谷
奨励賞 長山 隆行
新人賞 横田 仁実

工芸の部

特選 土居 聡
特選 林 正臣
褒状 伊与田 美紀
褒状 湯浅 文彦
褒状 宮地 由美
奨励賞 吉村 庸子
奨励賞 林 満子
新人賞 中平 浩太

今月の



ちょっとでも楽しんでもらいたいし、

歓迎したい



たむら うめいち
田村 梅一さん

すばらしいの一言！
土讃線を走る観光列車「時代（トキ）」の夜明けのものがたり」の折り返し駅となっている窪川駅。下り列車が入線してくるの（トキ）。折り返しで高知方面に向かつて発車するのが「トキ」(2021・12月現在)。田村さんは、この入線から発車までの間、駅ホームの東側で乗客に楽しんでもらいたいという思いで、案山子を使ったパフォーマンスを披露しておられます。中でも秀逸なのが安来節。そう、どうしようもない！まず、案山子について。田村さ



▲田村さんの力作たちが、観光列車のお客さんを待っています。

んが案山子を作り始めるきっかけになったのは平成15年頃のこと。歌謡クラブのカラオケ大会に出かける奥様の送迎をしていた田村さん。「送って行けたらいいが、終わるまでが退屈。その間に何かできることはないものか」そんなことを考えていた頃、テレビで案山子作りを楽しんでいる方を見たそうです。「これだ！」と思った田村さんは、視聴中に覚えていた徳島県の集落に出かけて、その方を探し当てて方々を教えてくれたのです。これだけでもすごい行動力ですが、これだけでは終わらせません。

田村さんは、案山子作りだけでなく、作った案山子と踊る芸を始めました。奥様が参加されるカラオケ大会などで披露されているうちに、あちらこちらから声がかかるようになります。「もうひとつ芸が要る！」そう感じていた頃に会ったのがどうしようもない。このどじょうすくい、これまたテレビで、本場 島根県にある「ど

連載

No. 3



教えて！文化的施設のこと

みんながサービスを利用できるの？

令和6年度
開館予定



◆ 子どもたちが自分の居場所を見つけられる場

「子どもたちの未来への投資」として、「やってみたい」「してみたい」という気持ちを応援します。町民の皆さまのご意見やアンケート結果などを元に、子どもたちにとって居心地のよい施設づくりや、探求心や想像力を育む「アートプロジェクト」「STEAM教育」などといったプログラムを検討しています。さらに子育て世代も利用しやすく楽しめる施設を目指します。

◆ 人とまちをつなぐ、コミュニティの場

もちろん文化的施設は子どもたちのためだけの施設ではありません。生涯を通しての学びの場、課題解決の場、交流の場、活躍の場、仲間や居場所づくりの場の実現を目指しています。このほかにもビジネスや健康、高齢者向けの情報が集まるなど、多世代に様々なシーンで利用していただける施設です。特に文化的施設の1つの機能である図書館は利用者の年齢層が広く、気軽に利用できる使用頻度の高い公共施設として近年、全国的に注目を集めています。ぜひ一緒にいきいきとした施設をつくり育てていきましょう。



◆ 広域なまち全体にひらかれ、各地域をつなぐ場

文化的施設でのサービスは施設内にとどまりません。施設から遠い地域へも「移動図書館車」の運行や「図書のサテライト（団体）貸出」といった形でサービスの展開を図ります。また、スマートフォンなどからいつでも図書や美術作品の情報を知ることができたり、図書の貸出予約ができる仕組みを構築し、配送ネットワークの強化に努めます。そのほかにも、施設を核として関連団体や町内の各施設と連携し、各地域をつなぐことで、町全体で「文化の振興」や「人の交流」を促します。具体的な取り組みとしては「まちじゅう美術館」などといった形で、美術作品を各地域で展示していきます。



町全域へ広域的なサービスの展開
を目指します！



次回テーマ：建物の設計はどうなっているの？

「四万十町文化的施設」ビジョン

まちの文化が流れ、ひとにひらかれ、ひとが集まる 四万十駄場

お問い合わせ先
企画課 文化的施設整備推進室
☎22-3124